

# GREEN RANGER NEWS

2014年2月号

Vol.251



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局  
〒989-0231  
宮城県白石市福岡蔵本字滝下102  
Tel & Fax 0224-25-3820  
URL <http://www.zao.org/>  
e-mail [mail@zao.org](mailto:mail@zao.org)

## ■1月の活動報告

[理事会]日 時 1月19日(日)13:00~16:00

場 所 JR名取駅コミュニティプラザ1階

## ■2月の活動報告

2月9日、前日からの雪が記録的な大雪になり、開催が危ぶまれました。足場の悪い中、徒歩や車で会員が集まり、2014年度の総会は、JR名取駅コミュニティプラザ1階を会場に無事開催されました。以下総会の模様を報告いたします。協議事項 第1号議案 2013年度事業報告は仲村理事から報告され承認されました。第2号議案 2013年度会計・監査報告は会計菅原さんから報告があり、承認されました。第3号議案 2014年度事業計画(案)が仲村理事から提案があり、満場一致で承認されました。第4号議案 2014年度予算案について、森理事から提案があり、原案どおり承認されました。第5号議案 研修旅行について仲村理事から提案がありました。自然観察路の案内板の調査を兼ねて行き先を台原森林公園との提案に、審議の結果、原案に宮城県民の森を加え、日程は4月のカタクリ等の花が観察できる時期で調整することとしました。第6号議案 定款の変更について森理事から説明があり、**(任期等)第16条 役員**の**任期は2年とする。ただし再任を妨げない。2前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が集結するまでその任期を延長する。**下線部分を追加 (事業報告及び決算)第42条 この法人の事業報告、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度集終了後、速やかに理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。下線部分を「活動計画書」に変更 以上の説明があり、満場一致で承認されました。第7号議案 理事の改選について 白内理事長から提案がありました。

理事長 (再任)白内恵美子、副理事長 (再任)加藤朗 理事(再任)仲村得喜秀、(再任)山田静枝、(再任)森淑子、(再任)丹野みき、(再任)古舘義男、(再任)渡辺幸雄、(再任)森山稔也 監事(新任)吉島哲夫 (退任)大西誠 会計 菅原武佐子 事務局長(新任)大槻亮策 理事改選について満場一致で承認されました。第8号議案 その他 吉島さんから自然観察路について、見どころが分かるようなパンレットを作っては、また、会が目指すところを発信できるような資料が必要ではないのか、との提案がありました。以上、予定した議案をすべて審議し、総会は閉会しました。大雪のため開始時刻が遅れ、予定より短い時間となりましたが内容の濃い総会となりました。総会の後、名取駅西口の「田吾作」で新年会が開催されました。参加された皆様、足場の悪いところ、本当にお疲れ様でした。

## ■3月の活動案内

### [定例会]

開催日 3月9日(日)

集 合 場所のわからない方、JR利用の方 9:30 白石市役所  
自力で来られる方 10:00 苗畑(深谷)

場 所 苗畑(深谷)

内 容 苗畑根回し

## [森の教室]

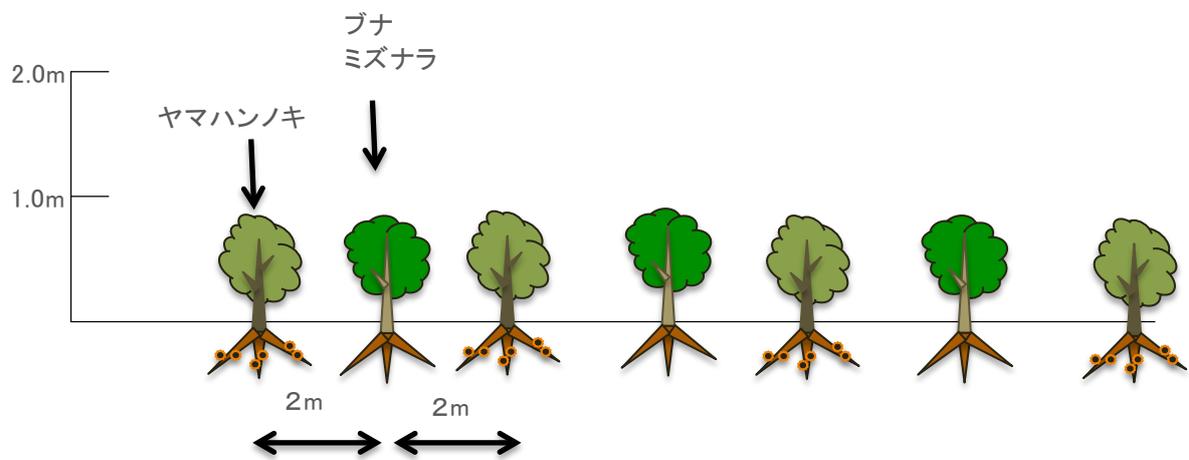
開催日 3月23日(日)  
 集合 作業小屋 10:00  
 内容 ツリーハウス作り(梯子立て)

■今年度活動の中心となる自然観察路について、観察地となる植林地の概要と森づくりの要点を解説した看板の説明文案が仲村さんから届きました。以下の説明文を参考に、実際に自然観察路のルートを見てもらい、そこにどんな草や樹があるか、どんな生き物の痕跡があるか実際に自分の目で確認し、森のこみちの名前や案内板についてアイデアをお寄せ下さい。

昨年から自然観察路の開設作業は続いています。  
 その内容や植林地内の自然について、これからGRニュースで発信して行きます。少しずつでも現状の植林地について理解していただければ幸いです。なるべく捨てないで保存して下さい。

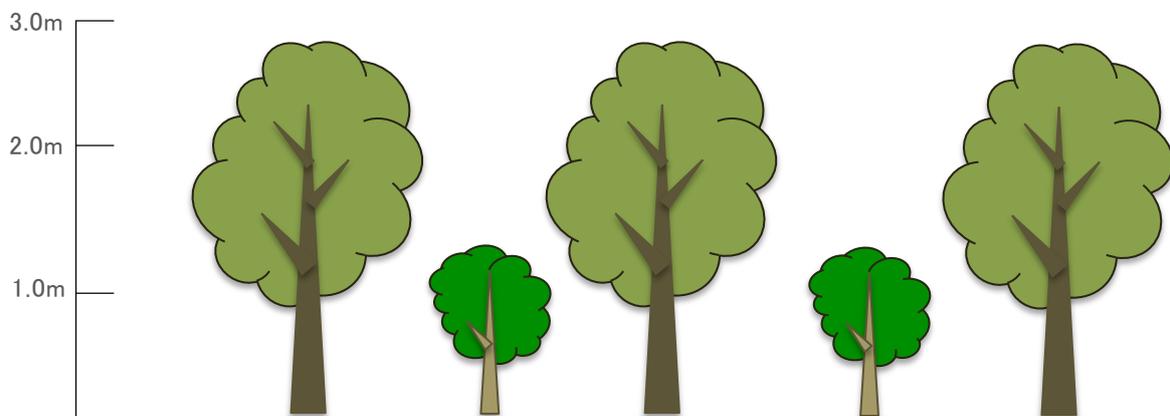
・森づくり地の標高	約650m～700m	
・森づくり地の面積	共有地	約 13ha
	当会所有地	約 0.7ha
・植林前	原野としての草地と草地と化した農地の面積が約8割 自然成立したアカマツ林が1. 8割 ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹林が0. 2割	
・植林期間	2002年から2007年、補植2008年～2013年	
・植林地は全体としての呼称を「森づくり自然園(仮称)」としたい。		
・自然観察路は「森づくり自然観察路(仮称)」としたい。		
・必要な看板	コース案内板(小)―数はいまのところ未定	
	地図を書いた案内板(大)―3基	
	森づくりの要点を解説したもの(大)―1基	
・森づくりの要点を解説した内容は、以下に記す。		
<h3>森づくり自然園(仮称)</h3> <h4>先駆性樹木(パイオニアプラント)混植法(根粒菌あり)について</h4> <p>ここでの森づくりは、落葉広葉樹の森を作り育てる事を目的としています。その施行方法として当会は、先駆性樹木混植法を考案しました。この方法は、裸地や草地等の荒地を森に復元する時に最も効果的なものと思われれます。自然界で森が成立するには、裸地→草地→遷移初期種(パイオニアプラント)→遷移前期種→遷移後期種という自然植生の移り変わりの過程を必要とします。裸地からブナやミズナラという遷移後期種に移り変わるのには数百年を要すといわれています。この方法は、パイオニアプラントの間に、遷移、前、後期種を同時に植える事で、遷移のスピードを早くしようというものです。根粒菌を持ったパイオニアプラントは肥料木ともいわれ、土壌を肥やす効果を持っています。今まで用いてきたパイオニアプラントは3種類です。極端な乾燥地にはアキグミ、裸地部にはオオバヤシャブシ、草地ではヤマハンノキを用いています。ここでは、そのほとんどが草地でしたので、ヤマハンノキを一番多く用いています。以下は植林後の模式図です。</p>		

## 1年目



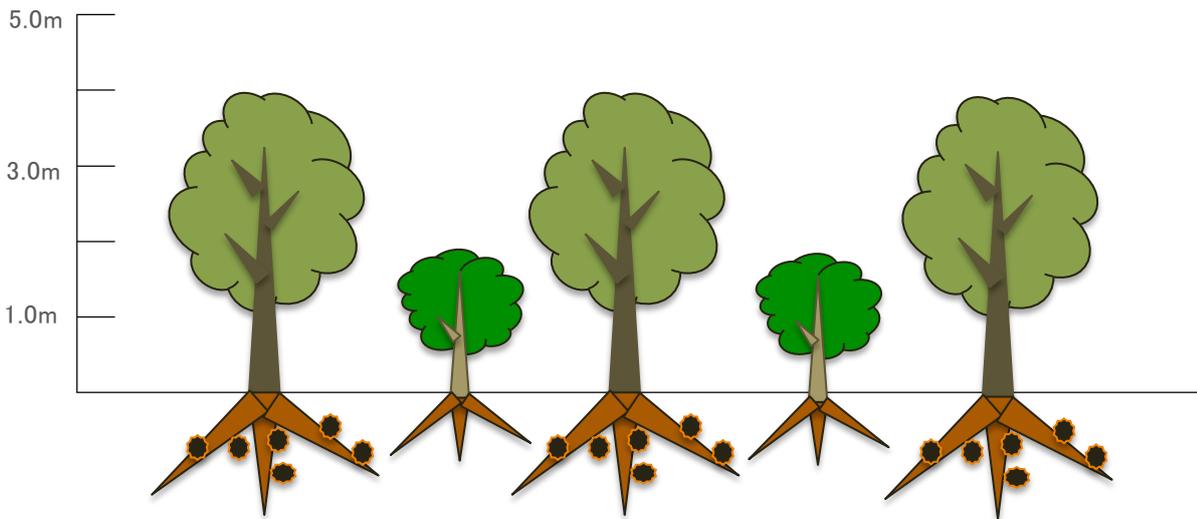
植林苗は高さ0.7m~1.0mくらい。ヤマハンノキの根には根粒菌がついている。  
植林間隔は2.0m

## 3年目



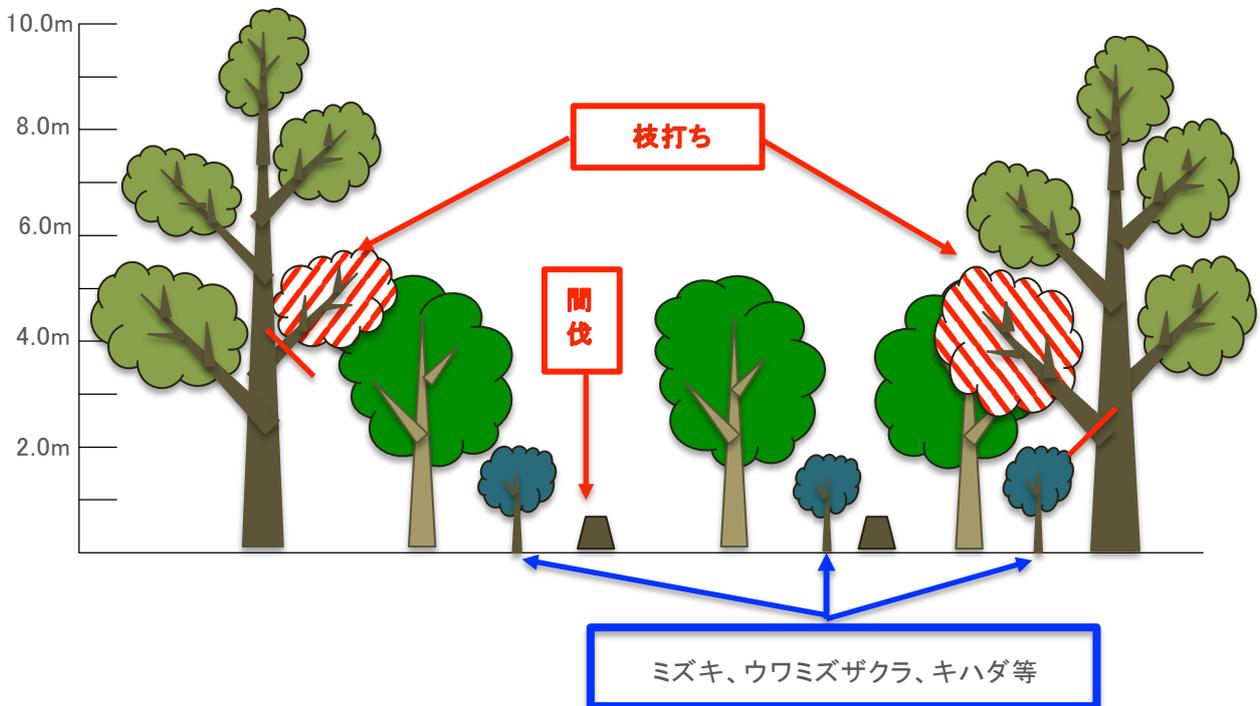
ヤマハンノキは、1年に1mくらい伸びる。ブナやミズナラは、まだあまり伸びることができない。

## 5年目



ヤマハンノキは、5mぐらいに伸び、地上部では、ブナ、ミズナラを防風、防寒し、地下部では、根粒菌による肥料木効果により、ブナ、ミズナラの成長を助けている。この頃からヤマハンノキは枝打ちが必要となる。

## 10年目



ブナ、ミズナラは3~7mぐらいに伸びる。ブナ、ミズナラの障害になるパイオニアプラントであるヤマハンノキは間伐や枝打ちを行う。日当たりが良くなると、ブナ、ミズナラの伸びは加速する。ヤマハンノキの枝に止まった小鳥がした糞から、植林以外の木が生えてくる。